

秋田県大館北秋田地域

□ 秋田スギ産地の復活を目指して ～秋田スギのふるさと、ふたたび～

産学官協同による新たな需要創造や雇用創出、良質な秋田スギ産地としての価値向上を図り、林業成長産業化を目指す

□現状と課題

○本地域は秋田県北部、米代川流域沿いの大館市・北秋田市・上小阿仁村の2市1村からなる、古くからの秋田スギの主要な産地です。民有林の人工林は36年生以上の森林が約8割(35千ha)を占め、伐採、利活用、再造林という資源循環を開始するのに適した森林資源状況にあるものの、再造林率が1割程度にとどまっており、再造林対策が急務な状況となっています。

□アプローチ

○新制度である森林経営管理制度の円滑な運用と川上から川下までの事業者が機能組織として連携することを目指し、公有林を核にした施業団地を設定しました。令和元年度は大館市有林約8haで一貫作業システムによる主伐・再造林、約30haで列状間伐を実施するなど低コスト施業による素材生産及び造林を行っています。また、川中・川下事業者の連携により、大館市有林から産出されたスギの製品を東京都江東区(豊洲)の非住宅に供給するなど、川上から川下までの一貫した供給体制を構築しています。

○秋田スギを軸としたPRを図るため、地域住民を対象とした「秋田スギ講座・ワークショップ」等のイベントを開催するほか、訪日観光客等を対象とし、森林や木材を活用したサービス・体験の価値の向上を通して、地域材利用促進に繋げることを目的とした「AKITASUGIツーリズム」(「木の文化」の発信・「木のおもてなし」事業)を実施しています。

□取組の効果・成果

○川上から川下までの事業者が一つの施業団地をどのように活用するか協議を行い、生産量等の情報共有を行ったことで役割分担しながら、事業者連携による取り組みの試行・共有ができました。

○地域内での木材利用促進に向けて官民を挙げて木育の取り組みが開始されています。

□成功要因

○林業成長産業化地域への選定を契機に、大館北秋田地域林業成長産業化協議会を設立し、意見交換の場を定期的に設けることで、川上から川下のそれぞれの取り組みの進捗管理と情報共有を行っています。協議会の運営には学識経験者である秋田県立大学木材高度加工研究所に積極的に参画いただいたことで、産学官による事業推進体制を構築することができました。

□他地域でも応用できる考え方

○国有林や公有林を核とし、森林経営管理制度の集積計画を作成した森林と一体的な団地を設定することによって、大規模団地化による低コスト化を図る取り組みを検討しています。



一貫作業システムによる施業(大館市有林)



秋田スギ製品を供給した建設中の非住宅物件(東京都江東区/豊洲)



秋田スギ埋もれ木のキーホルダー作り(秋田スギ講座・ワークショップ)



伝統工芸品「大館曲げわっぱ」製作体験(AKITASUGIツーリズム)